令和８年度 第３回福部地域振興未来会議　議事概要

■日　　時　　令和８年８月２７日（木）　９：００～１０：３０
■会　　場　　福部町総合支所　２階　第２・３会議室
■出席委員　　上山弘子、宇山英俊、岸本正枝、中川玄洋、中島幹夫、濱田香、加藤美幸、谷口孝義、西田一幸（順不同敬称略）
■欠席委員　　岩﨑幸子、西尾祥幸、松田浩稔（順不同敬称略）
■鳥 取 県　　鳥取県土整備事務所　計画調査課　前田課長補佐
鳥取県河川課　伊藤参事、久野課長補佐
■事 務 局　　米澤支所長、福山副支所長兼地域振興課長、瀬戸川産業建設課長、水戸口市民福祉課長、前岡地域振興課長補佐、松尾主事

１　開　会

２　会長あいさつ

３　報告事項

（１）第２回江川流域水害対策等検討会の開催結果について（鳥取県土整備事務所 計画調査課）

【鳥取県】　～資料に沿って説明～

＜河川整備に伴う浸水被害への効果検証について＞

【委　員】浸水が引くまでの時間が３割程度短縮されるという説明だったが、整備しても浸水がなくなるわけではないのか。

【鳥取県】資料に記載している内容の整備を行っても浸水は免れない。浸水しないことを目指す整備を行うには、膨大な時間とコストがかかる。それよりは、工期が短く、すぐに効果を得られる整備が必要だと考えている。

【委　員】浸水時間の短縮について説明があったが、浸水の深さへの効果はどうか。

【鳥取県】仮に令和５年の７月豪雨と同程度の災害を想定すると、整備前の状態で約１メートル程度の浸水が発生するという解析結果となっている。今回予定している整備を行うことで、約80ｃｍまで改善が見込まれる。床下浸水は発生してしまうが、床上浸水を解消できることを念頭に置いて取り組んでいるところである。

＜施工スケジュールについて＞

【委　員】江川流域特定都市河川の指定を令和９年度目標で進めているとのことだが、令和９年度に指定が行われた場合、その後の施工スケジュール等はどのように進んでいくのか。

【鳥取県】仮に令和９年度に指定が行われれば、その後、江川流域の水害対策計画を策定していく。策定には１年程度を要し、策定後に国の認可を受けてから、用地交渉や測量、設計等に着手する予定である。早ければ令和10年度から国の補助を受けて事業を開始したいと考えている。なお、工期については現時点で明確には示せないが、着手から概ね10年度程度を見込んでいる。

【委　員】地権者も多い場所であり、時間がかかるとは思っていたが、10年もかかるとは思っていなかった。

【鳥取県】現在、福部駅前でも工事を行っているが、河川工事はとても時間がかかる。特に福部町の特性として、地盤の脆弱性があり、沈下対策、地盤改良に時間とコストが必要となる。

（２）第40回鳥取砂丘らっきょう花マラソンについて

【事務局】　～資料に沿って説明～

＜前回参加者等へのアナウンス、応募状況等について＞

【委　員】昨年参加された方でまだ申し込まれていない方へのアナウンスは実施したか。

【事務局】８月19日に再度アナウンスを行ったところ。そこから本日までも応募が増えている状況である。

【委　員】福部未来学園からは何名程度応募があったか。

【事務局】50名程度の応募がある。

＜飲食ブース等への集客について＞

【委　員】有志による汁物の試作やキッチンカーの出店依頼など、大会を盛り上げるために試行錯誤しているところである。今後は、大会参加者だけでなく、地元の方々にもご参加いただき、一緒に盛り上がれるような大会にできないか。

【委　員】コースの都合上、スタート後はオアシス広場へのアクセスが困難になる。そのため、福部未来学園の保護者の中には知人宅に駐車し、徒歩で向かう状況となっている。
大会参加者以外を会場に呼び込むのは現実的に難しいのではないか。昨年、保護者用のシャトルバスを用意したが数人しか乗車しなかった実態もある。また、スタート後には会場から出られなくなり、応援に来た方はやることがないのも課題ではないか。

【委　員】ランナーが走る場所は避けて、他のルートを確保することは難しいのか。

【事務局】今大会の変更は難しいが、次回への参考とする。

【委　員】募集チラシにキッチンカー等に関する情報が記載されていない。

【事務局】早い時期に大会参加者を募集したい意図があり、６月頃にはチラシを作成している。その時期に確定している情報しか掲載できなかった。

【委　員】参加者が知らずにおにぎり等を持参すれば、飲食ブースを出しても売れない。

【事務局】チラシに掲載していない情報は、大会ホームページや参加者へゼッケンを送付するタイミングで共有する等の対応を検討する。

（３）地域おこし協力隊について

【事務局】　～資料に沿って説明～

＜応募状況について＞

【委　員】募集サイトで関心がある方とやりとりをした感触が知りたい。軽い気持ちで関心があるという方もいれば、慎重に考えて関心があるという方もいる。そのような状況で、実際にやりとりをした時のリアクションはどうか。

【事務局】こちらからメッセージを送った際に、具体的に何に興味があるのか、詳細に伝える方もいれば、やりとりがすぐに終わる方もいる。前向きな方には応募していただくように返答しているが、まだ応募はない状況である。

【委　員】移住定住フェアはどこで開催されているのか。

【事務局】本市が東京や大阪などで開催している移住定住フェアにおいて、チラシを配架するなどして周知を行っている状況である。

【委　員】地域おこし協力隊の制度自体が三大都市圏から地方への移住促進を目的としており、関東・関西圏でのフェア開催は制度の趣旨にも合致している。なお、地方から地方への移住の場合は、居住地要件などが厳しくなる。

【委　員】他の地域では隣町から協力隊員がきているケースもあるが難しいのか。

【委　員】不可ではないが、この制度の趣旨として、元々近場からの移住は想定されていない。

【委　員】宣伝に協力したいが、どんな方が対象になるかわからないと難しい。

【委　員】地元出身者で都市部に出ていった子達が、地元に戻ってきて３年間は協力隊として勤務しながら、次の仕事を探すというパターンも想定するとよいのでは。

【事務局】基本的には、交付税措置の対象となる要件を満たす人材の採用を方針としており、三大都市圏を中心とした都市部からの応募を想定している。いただいたご意見を参考にしながら、隊員募集に取り組んでいく。

４　閉　会